

# 和光



発行 〒894-0007 鹿児島県奄美市名瀬和光町1700番地  
国立療養所 奄美和光園  
電話(0997)52-6311 FAX(0997)53-6230

令和2年11月1日  
(2020)

第119号

■表紙	1	■「西日本皮膚科」雑誌賞をいただきました	9
■奄美和光園交流会館(歴史資料館)開館	2	■第32回ハンセン病コ・メディカル学術集会にWeb参加して	10
■病棟敬老祝賀会	3	■部署訪問による感染予防対策研修・新人紹介	11
■病棟 夏祭りオンパレード	4	■BLS研修・保育所絵画作品展	12
■治療棟 八月踊り訪問披露	5	■作業療法活動	13~14
■不自由者棟 八月踊りの輪	6	■NST News Letter	15
■和光園 七夕飾り	7	■奄美和光園の歴史	16
■和光園名所めぐり	8	■地域との交流	17
		■診療統計・人事異動・和光園日誌・今後の行事予定・編集後記	18

## 基本理念

私たちは、入所者一人ひとりの生命の尊厳と人権を守り、豊かな自然環境につつまれた穏やかで心豊かな療養生活と、安全で安心できる医療を提供します。



秋の庭先

## 基本方針

1. 入所者の終の棲家として心穏やかな暮らしを支えることを基本とします
2. 入所者自治会とよく話し合い 入所者本位の運営に努めます
3. 入所者一人ひとりの日々の変化にきめ細かく対応いたします
4. ハンセン病による後遺症や合併症の対策をしっかりと行います
5. 入所者が高齢化していることを念頭に置き 健康保持の活動や生活を支える医療さらには感染予防・認知症対策に重点を置きます
6. 地域医療とも連携し 適切で標準的な医療の提供に努めます
7. ハンセン病に対する正しい知識を普及させるため 啓発活動に努めます
8. 開かれた療養所となることを目的に地域社会との交流促進に努めます
9. 入所者の健康と安全な生活に貢献できるようすべての職員の質の向上に努めます

# 奄美和光園交流会館(歴史資料館)開館

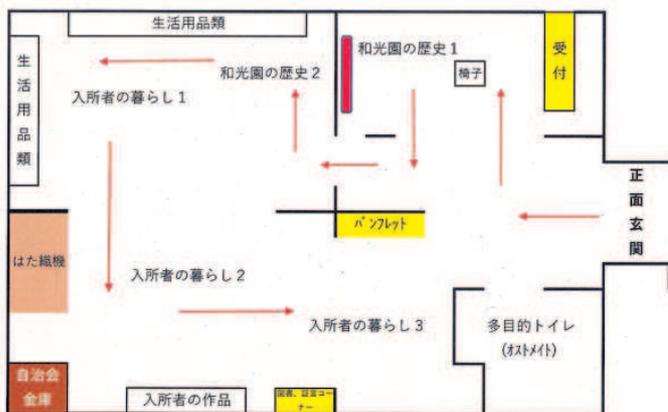
奄美和光園におけるハンセン病の貴重な歴史を残すため、ハンセン病に関する正しい知識の普及及び啓発、地域との交流を目的として交流会館が開館した。全国13の国立のハンセン病の資料館としては、最も遅い開館となった。建物は1階建てで、広さは80㎡である。元自治会長の山田さんから、奄美には紅葉がないので紅葉をイメージした建物にしたいとの要望があり、屋根は緑色、壁は黄色の建物となった。場所は、正門から真っすぐ奥に進んだ行啓記念公園(高倉公園)の隣である。

令和2(2020)年5月20日(水)に改修工事が竣工し、7月中旬に展示作業が終わったので、7月30日(木)の午後、入所者に交流会館を見てもらい開館の了解を得た。新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の影響により、外部公開

は行わず8月3日(月)午前11時から、入所者及び職員でささやかな開館セレモニーを開催した。

今回の開館に向けて、実物展示を優先したため、現在のところ、入所者手作りの生活用品、はた織機、鏡台、碁盤、自治会金庫等の実物展示及び開園から現在までの入所者数の推移・園内配置図、歴代自治会長名、歴代園長名、歴史的建造物等のパネル展示が主となっている。まだ、展示できていない貴重な写真が2000枚以上ある。新型コロナウイルス対応のため外部の方への一般公開の日は未定であるが、新型コロナウイルス終息後の一般公開に向け、モニターによる写真展示等を充実させていく予定である。

福祉係(学芸員) 岩辻 好夫





# 病棟敬老祝賀会



奄美和光園の敬老祝賀会、例年であれば9月に園内外から多くの来賓客を招き盛大に行われます。しかし、今年度は新型コロナウイルス感染症防止のため中止となりました。そこで病棟レクリエーション係が中心となり計画を立て、日頃の感謝の気持ちと入所者を敬愛し長寿をお祝いしたいという思いで令和2年9月24日病棟で敬老祝賀会を開催しました。

病棟では今年度100歳を迎える方がおられ、国と奄美市さらに和光園から100歳祝いの記念品が贈られました。園長から内閣総理大臣署名入りの賞状が贈られたとき、かなり緊張した面持ちでいたのが印象的で

した。後日、その話を本人に聞きました。「あの時は、緊張しましたか。うれしかったですか。」とたずねると、何度も何度も「うんうん」と嬉しそうにうなずいていました。感染予防のため規模は小さくなりましたが、病棟スタッフが知恵を絞って立てたプログラムで病棟入所者、医師、コメディカルスタッフ、病棟および看護課スタッフ、参加者全員が最後は六調で盛り上がり、笑顔で終了することができました。

心温まる敬老会が実施できたのではないかと感じています。ご協力いただいた職員みなさまに感謝いたします。

病棟 看護師 生田 郁夫



病棟からの  
記念品も  
届けました



親に産んでもらったからこそ、  
この世の中に出てきたのです。  
私を産んでくれた親が、百歳まで  
長寿するよう願います。  
〜奄美大島の長寿を祝う詩〜





# 病棟 夏祭りオンパレード

8月26日、久しぶりに病棟食堂ホールから賑やかな笑い声が響き渡っていました。密集にならないように留意しながら、短時間でも祭りの雰囲気を感じて頂ければと願いを込めて、サービス委員が手作り夏祭りを企画しました。

はじめに、“ワッショイワッショイ”の掛け声とともに神輿と奄美祭りの名物ハブ隊が入場し、夏祭り気分を味わってもらいました。次に、“命の限り漕がせていただきます隊”の舟漕ぎ競争では、選手のみなさんが一生懸命に漕ぎました。入所者、職員の応援も盛り上がっていました。続いて、祭りの大イベントである花火大会は、コロ

ナの終息を願って本物さながらに大空に大輪の花を咲かせてくれました。

最後に、祭りの締めくくりの八月踊りでは、チヂンを先頭に「種おろしゃんせ」「キキャワンドゥマリ」を踊り、参加者みんなで楽しく六調で終わりました。入所者のみなさんが少しでも笑顔になれたこと、笑い声が聞けたことは、私たちの何よりの励みになりました。

今後も工夫を凝らして、入所者のみなさんに喜んでいただけるよう、病棟看護職員一同がんばります。他職種の方もご協力ありがとうございました。来年は、いつも通りの夏祭りを入所者みなさんや地域の方と一緒に笑顔で迎えられることを願っています。

病棟 介護長 徳 和代



# 治療棟 八月踊り訪問披露



今年は新型コロナウイルスの影響で園内外の行事が相次いで中止となり、寂しさを感じていたところ、「自分達で八月踊りができたらいいね」という一言がキッカケで、今回の八月踊りが実現しました。八月踊りとは、奄美の各集落で五穀豊穡を祈り、祝い踊られる伝統行事の一つです。

8月28日、チデン(小太鼓)を先頭に一般舎宅5カ所を訪問し、庭先や玄関先で島口での挨拶を伝えました。「種おりよさんせ〜♪」とハッピー浴衣着の職員一行が和光園バージョンの手作りした唄と踊りを披露すると、入所者の中には手踊りをされる

姿もあり、盛り上がりの中、新型コロナウイルス感染症・熱中症予防と皆様の長寿を祈る口上で幕を閉じました。入所者の方々から、「職員が初めて舎に来て踊ってもらった。」「懐かしく感動で涙が出た。昔は入所者同士で高倉の前で踊った。」など、昔を思い出した喜びの声が多く聞かれました。

今後も入所者の喜びと笑顔を引き出せるように介護支援を行い、入所者の活力に繋げて行きたいと思えます。

治療棟 介護員 柴 美津子

**おがみしよろ〜。きゅうや 治療棟まあーぐんにんていし、奄美の伝統行事、種おろしムチむれの踊りにきよたつとお〜。まあーじんま楽しんでくりんしよれ とうとがなし**

《こんにちは。今日は治療棟のみなで、奄美の伝統行事種おろしムチ(餅菓子)もらい踊りに来ました。一緒に楽しんでください。尊い尊い。》



# 不自由者棟 八月踊いの輪



「入所者の笑顔を引き出したい」そんな気持ちから、不自由者棟食堂ホールにて八月踊りを企画しました。

感染予防に留意しつつ、まず、ワイド節で2頭の牛が踊り回って盛り上げてくれました。そして八月踊り。チヂンのリズムに乗って、入所者のみなさんを囲み、輪になって踊ります。そろそろ腕が痛くなってきたところでペースが上がり、息も絶え絶えでした。その後は、一番の盛り上がりの六調。チヂンの音や指笛に心も踊り、入所者・職員みんなの笑顔が弾

けます。最後に、みんなで徳之島小唄を合唱し幕を閉じました。

集まった人々の唄や踊り、拍手や指笛。和やかな雰囲気の中ににぎやかさが加わり、唄や踊りは集まった人々の気持ちを共有させ、一体感を作り上げます。これまで当たり前だったことができなくなってしまった今、改めて集団で楽しむことの重要性を感じるひと時でした。

不自由者棟 看護師 巴 誉子



# 和光園 七夕飾り

2020年8月18日～8月31日の期間中、各部署で制作した七夕の笹飾りが園を彩りました。蝶や花やとかわいらしく、美しいそれぞれの七夕飾りが園内を彩り、コロナ禍で満足に出かけることができない入所者みなさんの心を和ませることができたのではないのでしょうか。入所者より「綺麗ね」や「これはどんなに作っているのかしら」と、興味や関心を寄せていただいたり、笑顔をみることができました。8月26日にはそれぞれの部署の七夕に表賞の飾り（すてきな島言葉に奄美の花を飾った色紙）を贈呈しました。

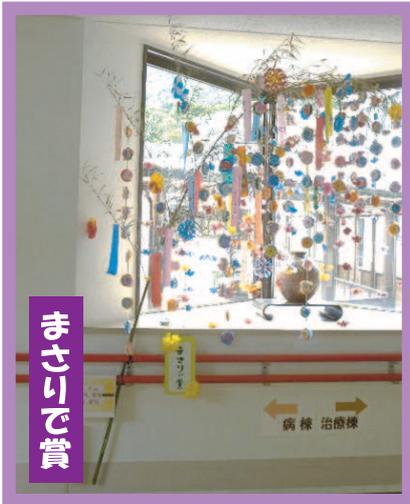
各賞の結果発表です。事務・検査室・放射線科・薬局・歯科・医局は《まさり(上手)で賞》、給食は《ほこらしや(誇らしい)で賞》、治療棟は《きぼった(がんばった)

で賞》、リハビリ・福祉は《すつとごれ(負けるな)で賞》、病棟は《いだっか(格好いい)で賞》、不自由者棟は《きよらさ(きれいで賞》と楽しい賞でした。

また、給食から提供された七夕ゼリーのさわやかな青色が、味わう人に"涼"を感じさせてくれました。

七夕作成にご協力いただいた入所者や職員のみなさま、ありがとうございます。コロナ禍に負けず、楽しく過ごしていきましょう。

看護サービス委員  
不自由者棟  
介護員  
小松 呉穂



# 和光園名所めぐり

「秋の交流会」では和光園の名所を紹介した「和光園名所めぐり」のパンフレットを作成しました。園内には入所者の方達が力を合わせて開拓した記念公園や皇族方の行幸記念碑、功績ある方の記念碑や作品、至る所に四季折々に咲く花木など、たくさんのお名所があります。

このパンフレットには当時の様子や現在の写真を記載し、和光園名物の花木を紹介しました。配布したパンフレットを手に入

所者のみなさんが散策している姿や、「懐かしい」との声とともに昔話に花が咲いている様子を見てとても嬉しく思います。入所者のみなさん！ 素敵な花言葉を持っている花木や思い出の記念碑がある和光園の名所を、もう一度私たちと一緒にめぐりませんか？

看護サービス委員

病棟 介護員

朝野 寿枝



昭和46年(1971年)

高松宮殿下・同妃殿下お手植えの車輪梅

しゃりんばい  
車輪梅の花言葉「そよ風の心地良さ」「純真」



たいさんぼく

泰山木の花言葉

「前途洋々」

「希望に満ち溢れている」



# 「西日本皮膚科」雑誌賞 をいただきました

私が所属する日本皮膚科学会西部支部の機関誌である「西日本皮膚科」では、年間60～70編の論文の中から最多6編に雑誌賞が授与されます。大部分の論文は、大学医局や関連病院からの論文ですが、なんと！2019年に発表した「奄美大島における2011年から2018年のヌカカ刺症の検討」という統計論文が、第12回「西日本皮膚科」雑誌賞を受賞しました。「エッチ虫って何？」から始まった素朴な疑問が、偶然にも皮膚科学会では超有名な虫博士の先生とお知り合いになる機会を得て、成り行きでヌカカを採集する羽目にもなりましたが(笑)、ヌカカに刺された兄妹の臨床写真撮影の協力もあり、論文作成に至っただけでなく、このような賞をいただくことができ、

人と人の繋がり大切さを改めて感じました。

本来であれば西部支部学術大会の懇親会で表彰式が行われるところ、今年度はコロナ禍により学会がWEB開催となり、賞状が郵送されるという非常に淡泊な表彰となりました。雑誌賞は著者1名に2回まで授与可能と規定されているため、日々の診療に問題意識を持って論文を作成し、願わくば再受賞して、医局に属していない臨床医でも受賞できることを表彰式でアピールできるよう、精進いたします。

副園長 馬場 まゆみ



# 第32回 ハンセン病 コ・メディカル学術集会に Web参加して

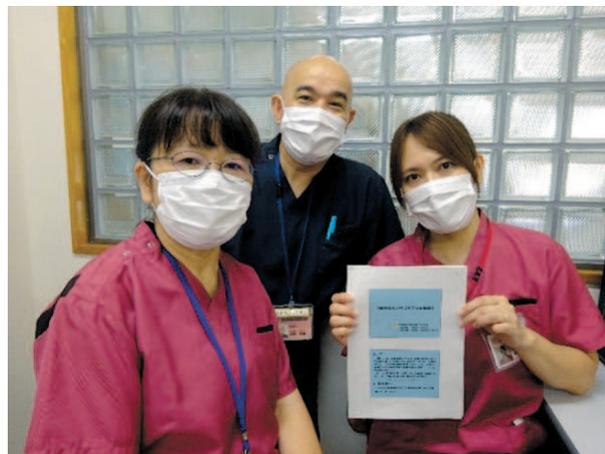
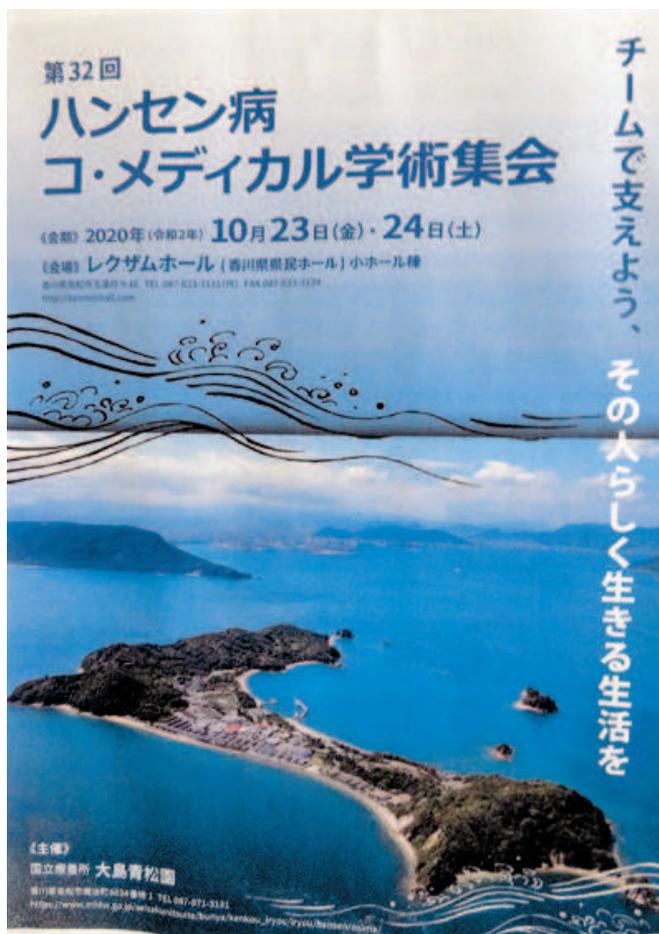
今年度のハンセン病コ・メディカル学術集会は、コロナ禍の影響によりオンライン開催となりました。一般口演での発表は、ホームページ内の特設ページに事前収録した音声入りのスライドをオンデマンドコンテンツ配信するという形式で行われ、初めてのWeb上での発表や参加体験をしました。全国のハンセン病療養施設13園から多数の演題が参加登録され、奄美和光園からも4題参加発表しました。

今回私は、不自由者棟の介護研究グループに初めて参加し、昨年度から取り組んできた「A園職員の水害に対する意識調査」をテーマに研究発表しました。今回の研究

では、台風や豪雨の水害時に不安を持つ職員に対して、『水害時の避難訓練、危険箇所の把握、具体的なマニュアル作成』がとても重要であること、そういった対策が災害対応時の職員の自信に繋がるということが分かりました。このことを今後の業務に活かせるよう努力していきたいと思えます。

このような貴重な体験の機会を得ることができ、ご指導ご協力いただいた皆様に研究グループ一同深く感謝いたします。

不自由者棟 介護員 奥田 美穂



# 部署訪問による感染予防対策研修

看護課感染管理委員・ICT委員になり1年が経った頃、新型コロナウイルスの世界的パンデミックが起きました。奄美の店頭からもマスクやエタノール消毒薬が消え、和光園でも「サージカルマスクの再(洗濯)利用」と「布マスクの作成・全員配布」を行いました。梅雨が過ぎ夏になっても新型コロナウイルス終息の兆しは見えません。

そこで7月の園内感染予防対策研修のテーマを、「適切なサージカルマスクの着脱と環境表面の清掃」としました。3密を避け各部署にICT委員が出向く、初の訪問研修です。私の担当は福祉室。「マスクの特徴や洗い方、高頻度接触面の拭き掃除」

など、感染対策として日頃から心がけている内容でした。しかし、研修後に「洗濯は何回まで?」「拭き掃除は何を使う?」など具体的な質問が多く寄せられ、実際の業務や生活に適した研修を行う大切さに気づきました。

入所者を守るために大事なことは、職員の私たちがまず感染しないこと。新型コロナウイルスの少しでも早い終息を願い、これからもICT委員として情報を発信したいと思います。

ICT 不自由者棟

看護師 光村 真弓



## 新人紹介



庶務班 共済係 渡 千鶴子 (わたり ちすこ)

皆さま、はじめまして。この度11月1日より庶務班にて勤務させていただくことになりました渡 千鶴子と申します。出身は奄美市名瀬です。入ったばかりで、不慣れなこともあり、皆さまへご迷惑をおかけすることもあると思いますが、少しでも早く仕事を覚え貢献できればと思います。精一杯頑張りますので、どうぞよろしくお願い致します。

# BLS研修

## ～光る血流表示機能モデルを導入して～

今年度も医療安全BLS<sup>1</sup>研修を全職員対象に実施しています。今年度、新しく心臓マッサージによる血流が一目でわかる蘇生訓練用人形「BRAYDEN」<sup>2</sup>を導入し、より効果的に心肺蘇生の手技が学べるようになりました。力の強い男性も、小柄な女性も、額に汗を浮かべながら真剣に取り組んでいました。上手く人形の血流の光が表示されると、ホッとした笑顔も見られていました。

今年はコロナ禍での研修となり、密を避



けるよう環境に注意して行い、必ずマスクを着用して救助すること、場合によってはタオル等で傷病者の口を覆い蘇生を行うことも注意ポイントとしての説明が加えられました。

今後も、全職員が緊急蘇生時の対応にも慌てず、協力して対応できるよう技術と知識を確認していきたいと思います。

治療棟 看護師長 山本 農

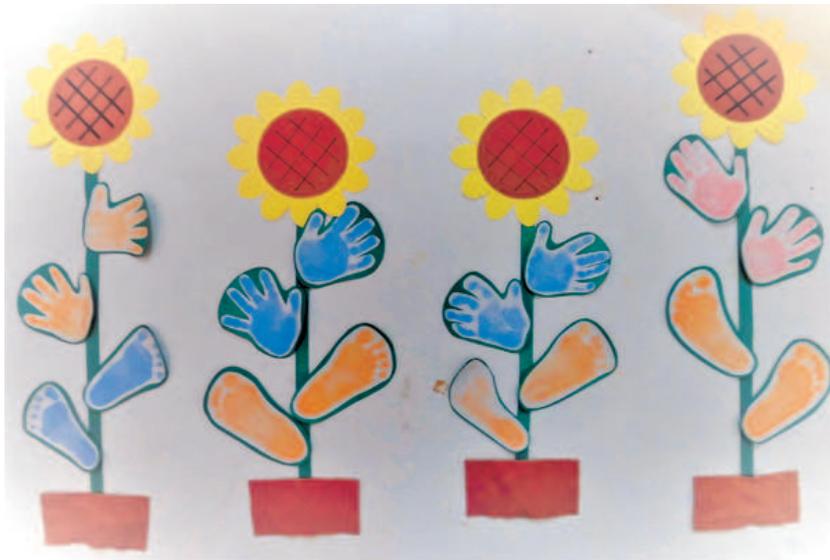
1 BLSとは、心肺停止または呼吸停止に対する一次救命処置のこと。

2 心肺蘇生の訓練用人形「BRAYDEN」は、胸骨圧迫による心臓や脳の血流を光で表し、有効な手技を自分の目で確かめることができる。



## 保育所 絵画作品展

左から1歳のはるとくん、2歳のかんたろうくん、あきとくん、さなちゃんの手形と足形で作成した向日葵です。向日葵のように明るく、元気に毎日いっぱい遊んで、いっぱい食べて楽しく過ごしています。



# 作業療法活動

今年度は、新型コロナの影響もあり、集団での作業療法活動は十分に実施出来ていませんが、個別にて手工芸の時間を設けております。陶芸、水彩画、切り絵など……様々な活動に、皆さま熱心に取り組まれています。

今回は作品の一部ではありますが、紹介

させていただきます。どれも個性あふれる素敵な作品ばかりです。また、リハビリ室やあすなろホールにも作品を展示していますので、気軽にお立ち寄りくださいね。

作業療法士 中里 あゆみ

## パウダーアート



## 水彩画



小物入れ



ちぎれ絵アート



陶芸



きめこみパッチワーク



カレンダー



マグネット



## NST News Letter

No.15

みなさんも一度は【誤嚥】【誤嚥性肺炎】という言葉を目にしたことがあると思います。ご存じの方も多いと思いますが、まずは、【誤嚥】と【誤嚥性肺炎】の関係についてお話したいと思います。

【誤嚥】とは、唾液や食べ物を飲み込むときに、誤って気管に入ってしまうことをいいます。通常であれば、気管に唾液や食べ物が入ってしまった場合、咳(むせ)が出ますよね。この咳(むせ)が生じることで、気管から異物を排出することが出来ます。しかし、この機能が衰えてしまうと、排出出来なかった異物が肺の中にとどまり、菌が増殖し、炎症を起こしてしまいます。この状態を【誤嚥性肺炎】といいます。

誤嚥＝誤嚥性肺炎ということではありません。口腔内や全身の健康状態、食べ物を「嚙む」「飲み込む」「吐き出す」力など、それらの能力が衰え悪い状態で誤嚥してしまうことで、肺炎へと進行する可能性を高めてしまうのです。誤嚥性肺炎がきっかけとなり、口から食べることが難しくなるだけでなく、体力や意欲の低下へと繋がり、日常生活の様々な活動へも影響を与えています。つまり、衰えている能力を悪い状態のままにせず、良い状態にすること・維持することがとても大切になります。

今回は、『日常生活のちょっとした場面で行える誤嚥予防策』を3つのポイントに分けてみました。誤嚥は招くこともあれば、反対に防ぐことも出来ます。いつまでも美味しく食事をとり、健康で笑って毎日を過ごすためにも、誤嚥予防について一緒に考え、実践してみませんか？

### ポイント① 口や喉の機能を高めよう！

唾液や食べ物で、“むせることが多くなったな”“飲み込みが負担に感じるな”“食が細くなったな”と状態は一人ひとり異なります。衰えている力・衰えやすい力を優先的に鍛えることはもちろんのこと、「嚙む」「飲み込む」「吐き出す」力をバランスよく鍛えることが出来るよう、継続的に訓練を行うことが大切です。

食事前や時間のある時に、顔・首・肩などのマッサージやストレッチ、舌や口の体操、発声（早口言葉や歌を歌うなど）を、意識的に行ってみましょう。周囲の方々と楽しみながら取り組むのも良いですね。



### ポイント② 毎日の「ちょっとした運動」で全身の筋力と体力アップ！

咳(むせ)が生じ、誤嚥したものを気管から出すには、呼吸する力や腹筋、背筋の力が必要になります。また、運動せず、最低限しか動かない日常生活を送っていると、心肺機能はいつの間にか低下してしまいます。体力をつけることは、誤嚥性肺炎予防にもとても役に立ちます。

例えば、1日1回は外出・散歩(歩行)をする、ラジオ体操やスクワットなど運動を取り

入れる・・・その日の体調やご自身に合ったものを、日常生活の中にほんの少し取り入れてみてはいかかでしょうか。



### ポイント③ 誤嚥予防に繋がる食べ方を意識しよう！（姿勢編）

食事をする時の姿勢、みなさんはどうでしょうか。体が左右に倒れていませんか・・・？猫背になっていませんか・・・？足は床についていますか・・・？机と椅子は体に合っていますか・・・？

わたしも無意識のうちに姿勢が崩れていることがよくあります。しかし、誤嚥を防ぐ一つとして姿勢を整えることはとても大切です。

食べ物が、スムーズに食道に入る姿勢を習慣づけ、安全に美味しく食事を楽しみましょう。そして一口ごとに、「嚙む」→「飲み込む」→「次の食べ物を口に入れる」と各段階を意識して丁寧に食べるよう心がけましょう。



最後に、わたしたち作業療法士はNSTの一員として、「その人らしい生活の実現」を目指し、微力ながら入所者の皆様の食支援をお手伝い出来ればと思います。

作業療法士 中里 あゆみ

# 奄美和光園の歴史

### (3) 松本当太郎園長発令、昭和20年終戦

保田園長が応召出征した後、昭和18(1943)年9月12日付けで松本当太郎が園長に発令になった。職員も10名となり、昭和18年末には入所者は9名となった。国立の療養所への収容ではあるが、入所者は自給自足の生活を強いられ、元気なものは分担して農耕を行った。

開園から約1年後の昭和19(1944)年3月18日、入所者が19名になったので、開園式典が行われた。しかし、食糧難と気候習慣の違いから健康を損ねる者が続出したため、



開園式

光明園<sup>1</sup>からの職員と家族は本土へ引き上げた。柳田吉之助と新納秋義が残り、代わりの職員が採用された。同年7月に相良十字郎(元大島警察署防疫監)が書記(庶務課長)として赴任し、空襲警報下、職員を督励し、共同炊事場の建設、寮舎と官舎の瓦葺きなどを行った。10月には、喜界島から18名の患者を収容した。相良十字郎は、昭和12(1937)年6月25日に設立された奄美救らい協会の設立準備委員会委員9名のうちの一人である。昭和20(1945)年3月には、本土へ引き上げた。

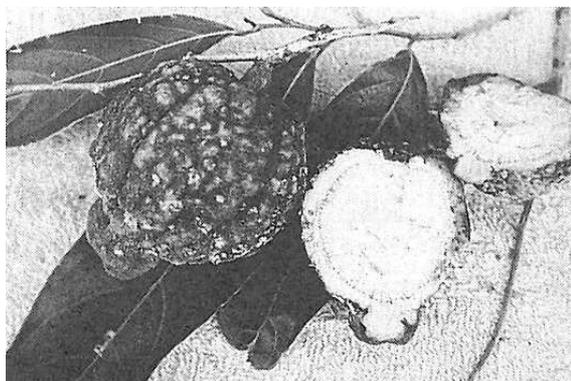


奄美救癒協会の結成式

昭和12(1937)年6月25日  
奄美救癒協会の結成式  
(名瀬公会堂)  
「救癒運動は愛国運動なり」

昭和20(1945)年2月太平洋戦争も末期の頃となり、味噌はおろか塩さえも完全になくなり、入所者はさらに苦しい生活を強

いられることとなった。入所者は、連日のように襲い来る敵機の襲来に逃げまどいながらも、入所者同士で付き添いを行い、大楓子油<sup>2</sup>の注射による治療を継続



大風子の実

していたが、注射された部位が化膿して苦しんだ。昭和20(1945)年6月10日、敵機による機銃掃射が療養所の廊下の屋根を突き抜け、職員の柳田吉之助が殉職した。

昭和20(1945)年8月15日終戦を迎え、翌昭和21(1946)年2月2日、いわゆる「二・二宣言」により、北緯三〇度以南の奄美、沖縄を含む南西諸島は日本本土から行政分離され米軍の軍政下におかれることとなった。入所者はさらに苦しめられることとなる。

福祉係(学芸員) 岩辻 好夫

1 呂久光明園、岡山県呂久郡、昭和13(1938)年4月27日開園。昭和16(1941)年7月1日、第3区連合府県立療養所から国に移管され、国立療養所呂久光明園となった。奄美和光園初代園長 保田耕先生の前勤務地。

2 大風子の種子を絞って得た脂肪油。黄色ないし帯黄褐色透明の液体で特異の臭いを持つ。古来ハンセン病に特効があるとして使われてきた。 広辞苑 第四版, 1993年9月10日, P 1556

(出典)  
光仰ぐ日あるべし 南島のハンセン病療養所の五〇年, 1993年8月10日発行, P 52-53, P 70-76, P 118  
同歴代職員名簿和光会関係資料 P 3



# 地域との交流



## ～朝日小学校家庭教育学級と大運動会のソテツアーチ～

10月15日、朝日小学校に於いて保護者と教諭対象の「子育ての中でのアンガーマネジメント」と題した講演が行われました。講師は当園内科医長矢野隆子先生です。参加者は30名と多数で、子育ての悩みやイライラコントロールへの興味の深さがうかがえました。皆さん熱心に受講され、講演後のご意見では「先生の子育ての体験を通したお話しが聞けて良かった。」という内容が多く、「もっと聴きたい。」との声をいただきました。

また、10月4日同校で行われた運動会

の入場門に、当園玄関付近の『ソテツの葉』が使われていたことをご存じでしたか。例年、近隣施設のものを採取しているようですが、今年は足りずに依頼がありました。加納園長の「また生えてくるものですから、どうぞ。」との快い返事により、小学校との新たな交流が生まれたように思います。

二つ返事でお引き受けいただきました加納園長、矢野内科医長に感謝いたします。

栄養係長

(朝日小学校保護者) 青堀 尚子



写真提供：朝日小学校



写真提供：朝日小学校 保護者

当園のソテツの葉で作ったアーチ

### 令和2年度 診療統計

	外来診療					特記		入院診療		
	初診(人)	再診(人)	合計(人)	1日平均(人)	診療実日数(日)	紫外線療法(件)	手術/生検(件)	入院(人)	退院(人)	延患者数(人)
9月	123	265	388	35.3	11	72	1	0	0	0
10月	154	312	466	35.8	13	81	7	0	0	0

### 人事異動

(令和2年9月1日～令和2年11月1日)

R 2. 9. 30	川畑 直子	保育士	任期満了(臨時的任用)
R 2. 10. 31	石野 春奈	共済係	退職
R 2. 11. 1	渡 千鶴子	共済係	採用

### 和光園日誌

(令和2年9月1日～令和2年10月30日)

- R 2. 9. 24 病棟敬老祝賀会
- 10. 12～16 看護実習(奄美看護福祉専門学校)
- 10. 17 第74回国立病院総合医学会(～11/14 Web開催)
- 10. 24 第32回ハンセン病コ・メディカル学術集会(オンライン開催)(11/16～23 一般口演)

### 今後の行事予定

- 慰霊祭 11/12
- クリスマスイルミネーション設置 12/17～1/21 予定
- ふるさとお楽しみ便贈呈式 12/18
- 花見 1月下旬～2月上旬(桜開花時期にあわせて)

### 編集後記

4月に和光園に赴任してきて7か月経過し、奄美の美しさやあたたかさ、美味しいものをたくさん発見しています。今年は新型コロナウイルスの影響で例年の行事の多くが中止となっていますが、職員みなさんのプラスの発想からオリジナリティ豊かな企画がたくさん生まれました。「和光」を通して、和光園の日常をみなさんと楽しく共有していきたいと思えます。

朝夕の冷え込みを感じる頃、新型コロナウイルスやインフルエンザウイルスへの予防を十分に行い、みなさん元気に過ごしましょう。

編集委員 林 理恵